

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2021年度
授業科目名	病理学 I		担当教員	石井 映幸	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年後期
授業形態	講義	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（医師）：28年	

授業概要

テキストを中心に、病気の成り立ちから疾患を理解するための基本的な知識、考え方を学修する。

到達目標

1. 疾病の要因とその成り立ちについて説明することができる。
2. 症候論から見た病態を説明することができる。

回数	単元	内容
1	病理学とは	病気の成り立ち
2	循環障害	体循環と肺循環 浮腫の原因 門脈循環
3	循環障害	血栓、塞栓、梗塞、虚血、充血、うっ血
4	循環障害	チアノーゼ、ショックの分類、DIC
5	炎症	炎症の徴候、発症機序
6	炎症	アレルギーの分類
7	免疫疾患	免疫システムについて
8	免疫疾患	膠原病について
9	代謝異常	脂質異常症、肥満
10	代謝異常	糖代謝異常、動脈硬化症、痛風
11	変性・壊死	萎縮・老化
12	先天異常	先天異常と遺伝子異常
13	先天異常	胎児異常、遺伝子異常、染色体異常
14	腫瘍	腫瘍の発生
15	腫瘍	良性と悪性、ステージ分類

評価	客観テストによる評価 100%
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学（医学書院）
参考図書など	疾病のなりたち（医学書院）

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2021年度
授業科目名	基礎看護学概論			担当教員	増田信代
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 前期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（看護師）：16年	
授業概要					
看護学の導入科目として、「看護とは何か」、「看護の対象である人間とは何か」を学び、看護の目的とその達成のためにどのような方法で看護を行うのかの基本的な知識について学修する。看護は人間の健康に働きかけるため、看護の構成要素である「人間」「環境」「健康」「看護」を理解し、またその関連性を学修する。さらに、「看護の対象者の理解」「国民の健康状態と生活」「看護の提供者」「看護倫理」「看護理論」を学び、専門職としての看護の役割・機能について学修する。					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の変遷と看護とは何かについて説明することができる。 2. 看護のさまざまな概念、定義について説明することができる。 3. 看護の対象が述べることができる。 4. 国民の健康の全体像について説明することができる。 5. 看護活動を展開するために必要な倫理について説明することができる。 6. 看護理論とは何かを説明することができる。 7. 看護の場における看護師の役割と責任について説明することができる。 8. 「看護とは」の自分の考えを述べることができる。 					
回数	単元	内容			
1	看護とは	①ガイダンス、②看護学の全体像			
2	看護とは	①看護の歴史、②看護教育の歴史と変遷			
3	看護とは	①看護の定義、②主要概念			
4	看護とは	①看護の役割と機能、②看護の役割・機能の拡大、			
5	看護とは	看護の継続性と連携：①情報伝達と共有、②多職種チームの連携と継続的なかわり			
6	看護の対象の理解	人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味 ①対象理解の基盤となる人体の構造と機能・病態生理、②ホメオスタシス			
7	看護の対象の理解	①「こころ」と「からだ」にかかるストレス、②患者心理の理解			
8	看護の対象の理解	①生涯発達しつづける存在としての人間理解、②人間の「暮らし」の理解			
9	国民の健康状態と生活	①健康の捉え方、②国民の健康状態			
10	国民の健康状態と生活	①国民の健康状態、②国民のライフサイクル			
11	看護の提供者	①看護職の資格・養成制度・就業状況、②継続教育とキャリア開発			
12	看護における倫理	①現代社会と倫理、②医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理			
13	看護理論	①看護理論の発達背景、②看護概念と看護理論、③看護の諸理論			
14	看護理論	理論家の看護理論：①ナイチンゲール、②ヘンダーソン、③オレム、④ロイ、⑤トラベルビー ⑥ペプロー、⑦ウィーデンバック、⑧オーランド			
15	看護理論	理論家の看護理論：①ナイチンゲール、②ヘンダーソン、③オレム、④ロイ、⑤トラベルビー ⑥ペプロー、⑦ウィーデンバック、⑧オーランド			
評価	客観テストによる評価80%、提出物20%				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①（医学書院） 覚え書き（現代社） の基本となるもの（日本看護協会出版会） わかる看護者の倫理綱領（照林社）				
参考図書など	適宜紹介する				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2021年度
授業科目名	精神看護学概論		担当教員	橋本 貴	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（看護師）19年	

授業概要

本科目では、精神看護の実践の基礎となる、心のしくみと働き、心の発達と精神の健康問題、精神の健康問題が人々の生活に及ぼす影響、また精神医療・看護の歴史の変遷、倫理と人権、精神保健福祉に関する法律と制度について学習し、精神看護の基本的な考え方、役割を学ぶ。授業方法は、講義を主として展開する。

到達目標

- 1 心の健康の保持・増進について、また心の健康に影響を及ぼす因子について理解することができる。
- 2 心の構造について理解し、心の成長について理解することができる。
- 3 精神障がい者の処遇と医療、看護の歴史を学び現在の問題点と今後の展望について考えることができる。
- 4 精神保健・医療・福祉の法律や制度を理解する。
- 5 精神看護の対象及び対象に現れる精神症状の特徴を理解する。

回数	単元	内容
1	精神看護とは	精神看護に対するイメージ、対象に対するイメージ、心の健康とは何かということについて現在の自身の考えを表現する。
2	脳と心	心（精神）とは何か。精神と脳の関係について学ぶ
3	心の健康とは①	健康という視点から心の健康とは何か、心が健康であるためには何が必要かを学ぶ
4	心の健康とは②	心の健康に影響を及ぼす因子、心の健康を守るための精神保健について学ぶ
5	心の構造	心の実態について学ぶ。意識・無意識・前意識、自我、超自我、エス
6	精神医療の歴史①	精神医療の成り立ち、精神医療が歩んできた暗黒の歴史について学ぶ
7	精神医療の歴史②	日本の精神医療の成り立ちと暗黒の歴史、どのような過程で制度が変化していったのかを学ぶ
8	精神保健福祉法①	精神医療を取り巻く法律について学ぶ。精神保健福祉法の目的について学ぶ
9	精神保健福祉法②	入院形態、行動制限について学ぶ
10	精神保健福祉法③	患者の人権を守るための仕組みについて学ぶ
11	精神症状① 思考の障害	思考の障害について学ぶ
12	精神症状② 感情の障害、知覚の障害、意欲の障害	感情の障害、知覚の障害、意欲の障害について学ぶ
13	精神症状③ 意識の障害、記憶の障害、知能の障害	意識の障害、記憶の障害、知能の障害について学ぶ
14	精神看護を行う上で必要なもの	精神看護の土台となるものについて学ぶ（患者-看護師関係）
15	まとめ	まとめ

評価	客観テストによる評価85%、提出物15%
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①（医学書院）
参考図書など	適宜紹介する

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2021年度
授業科目名	成人看護学概論			担当教員	相川 玲子
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 前期・後期
授業形態	講義	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（看護師：8年）	
授業概要					
<p>「成人期にある人の看護」をライフサイクルの中の成人期にある人の特徴を学習し、成人期における健康問題がその後の発達に及ぼす影響について理解する。また、社会・環境保健対策について概観し、成人看護の役割を理解する。さらに、成人看護に活用可能な理論について学習し、成人期にある人、およびその対象への効果的なアプローチ法について考え、理解を深める。様々な健康レベルに応じた看護を適用するための理論や概念について学ぶ。看護過程に必要な中範囲理論を教授するものである。</p>					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期において、ライフサイクル（青年期・壮年期・向老期）の特徴と保健について説明することができる。 2. 経過別看護：急性期の看護について理解し、理論・モデルの活用について説明することができる。 3. 経過別看護：慢性期の看護について理解し、理論・モデルの活用について説明することができる。 4. 経過別看護：回復期・リハビリテーション期の看護について理解し、理論・モデルの活用について説明することができる。 5. 経過別看護：終末期の看護について理解し、理論・モデルの活用について説明することができる。 6. 理論の応用の実際を体験し、自己の傾向と課題を考察することができる。 					
回数	単元	内容			
1	ガイダンス	ライフサイクルの中の成人期の位置づけと発達理論 成人各期の特徴と保健①青年期成人各期の特徴と保健②壮年期成人各期の特徴と保健③向老期			
2	成人保健	成人保健の動向と対策 生活習慣病・労働			
3	経過別看護の特徴：急性期における看護	PBL：problem based learning:問題基盤型学習方法（ワーク：調べ学習）			
4	経過別看護の特徴：慢性期における看護	PBL：problem based learning:問題基盤型学習方法（ワーク：調べ学習）			
5	経過別看護の特徴：回復期・リハビリテーション期における看護の特徴	PBL：problem based learning:問題基盤型学習方法（ワーク：調べ学習）			
6	経過別看護の特徴：終末期における看護の特徴	PBL：problem based learning:問題基盤型学習方法（ワーク：調べ学習）			
7	成人期に使用される理論・モデル	危機理論（バンデューラ・フィンク）			
8	成人期に使用される理論・モデル	アンドラゴジー			
9	成人期に使用される理論・モデル	自己効力理論・ケアリング			
10	成人期に使用される理論・モデル	エンパワメント理論・セルフケア理論			
11	成人期に使用される理論・モデル	病の軌跡理論（コービンとストラウス）			
12	成人期に使用される理論・モデル	死の受容過程（キューブラロス）			
13	成人期にある人の理解と効果的なアプローチの方法	グループワーク・ロールプレイ・健康信念モデル・エンパワメントモデル			
14	成人期にある人の理解と効果的なアプローチの方法	グループワーク・ロールプレイ・プロセスレコード・健康信念モデル			
15	成人期にある人の理解と効果的なアプローチの方法・まとめ	発表			
評価	客観テストによる評価70%、提出物30%（授業参加姿勢も含まれる）				
教科書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学総論（医学書院）、国民衛生の動向（厚生統計教育協会） 看護のための人間発達学 第5版（医学書院）				
参考図書など	適宜紹介する				

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2021年度
授業科目名	基礎看護方法論Ⅷ		担当教員	高橋 綾子	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務(看護師)：20年	

授業概要

健康障害のある対象が、安心して安全・安楽に診療を受けられるように、また、治療効果が上がるように援助することは看護師の重要な役割である。薬物療法においても、解剖生理学、薬理学、看護物理学の講義をもとに、根拠となる知識、安全・安楽な援助技術、患者の苦痛に配慮できる態度を学び、正確な与薬とその後の観察の方法を学ぶ。

到達目標

1. 与薬の意義・目的を述べることができる
2. 与薬経路と体内動態を説明することができる
3. 与薬法、注射法の目的・方法・留意点を説明することができる
4. 与薬における看護師の役割を述べるができる
5. 輸血療法の目的方法、留意点を述べるができる
6. 与薬の援助を受ける対象へ配慮する必要性を述べるができる

回数	単元	内容
1	1. 与薬に関する基礎知識	1) 薬物療法の理解 2) 薬物療法における看護師の役割 3) 薬物療法を受ける患者の援助
2	2. 外用薬の皮膚・粘膜適用	1) 口腔内与薬法 2) 皮膚用製剤の塗布 3) 点眼・点入法 4) 吸入法
3	演習	経口与薬法と実際、皮膚用製剤の塗布、貼布の方法と実際
4	直腸内与薬の方法と実際	直腸内与薬の方法と実際
5	3. 注射法の基礎知識	1) 注射法とは 2) 看護師の役割 3) 患者の援助 4) 必要な器具と取扱い 5) 各注射に共通する実施方法 6) 注射による合併症
6	注射法	1) 皮下注射 2) 皮内注射 3) 筋肉内注射
7	演習	皮下注射の実際、注射器の取り扱い、アンプルカット
8		
9	演習	筋肉内注射の実際、注射器の取り扱い、アンプルカット
10		
11	4. 輸血方法 血液型	輸血の種類、保存方法、交差試験
12	注射法	4) 静脈内注射 5) 注射器取り扱い 6) 輸注ポンプ
13	演習	静脈内注射、注射器取り扱い、バイアル(薬液溶解)、固定方法
14		
15	演習	輸液ポンプの操作、輸液滴下調整法

評価	終講テスト・レポートなどの総合評価とする
教科書	系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学④ (医学書院) 看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 看護がみえるVol.①② 基礎看護技術 (MEDIC MEDIA)
参考図書など	適宜紹介する

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2021年度
授業科目名	基礎看護学方法論Ⅹ		担当教員	橋田 まゆみ	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（看護師）10年	

授業概要

基礎看護学で学んだ看護とは何か、観察技術、環境調整技術、日常生活援助技術をふまえ、健康障害をもつ対象を理解し、対象にとって安全安楽な援助を計画立案し実践する。また、看護者も対象にとって一つの環境であることを理解し援助実践における態度を修得する。

到達目標

1. 日常生活を維持するための望ましい療養環境とは何かを述べることができる。
2. 快適かつ安全安楽な療養病床とは何かを説明することができる。
3. 対象の病床・病床周囲の環境から日常生活において問題である事象と問題を発生させている原因を記述することができる。
4. 問題解決に向けて援助計画を記述することができる。
5. 問題解決に向けて看護援助を実践することができる。
6. 実践した看護援助を記述することができる。
7. 実践した結果から目標の達成状況を評価できる。

回数	単元	内容
1	1. 環境調整とは	1. 環境の想起 1) 環境とは 2) 病床環境 2. 環境整備 1) 環境整備の方法
2	2. 環境整備の援助計画の立案	2. 対象にとっての安全・安楽をふまえて 1) 対象の看護計画を立案する 情報収集、情報の分析・解釈、対象の状況、望ましい環境 2) 事例紹介
3	3. 療養環境の観察	【演習】 3. 対象の療養環境の観察 1) 対象の生活の場としての療養環境のスケッチをする。 2) 対象が生活する安全安楽な療養環境（望ましい療養環境、環境整備の着目点）をふまえて、気づいたことを記述する。
4	4. 環境整備の計画立案	4. 環境整備の援助計画立案 1) 援助計画を立案する。 必要物品、観察項目、実施方法
5	5. 環境整備の実施①	【演習】 5. 立案した援助計画を基に環境整備を実施する。 1) 環境整備の実施 2) 実施した援助を振り返る 実施した結果・内容を記載する。援助内容を振り返り、評価する。 振り返りを基に計画の追加・修正をする。
6	6. 環境整備の実践②	【演習】 6. 追加・修正した援助計画を基に環境整備を実施・報告する。
7	6. 環境整備の実践② 7. 報告 方法、目的	【演習】 6. 追加・修正した援助計画を基に環境整備を実施・報告する。 7. 報告 1) 報告・連絡・相談の目的、種類 2) 報告・連絡・相談の注意事項 3) 報告のツール SBAR
8	8. まとめ	8. まとめ

評価	客観テストによる評価50%、ファイル提出50%
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学②（医学書院） 看護がみえるVol.① 基礎看護技術（MEDIC MEDIA）
参考図書など	適宜紹介する

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2021年度
授業科目名	老年看護学方法論Ⅱ		担当教員	田中貴代子	
単位数	1単位	時間数	15時間	履修時期	2年後期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（看護師）：28年	

授業概要

老年期に特有な健康障害を有する老年者を理解し、健康状態に応じた看護を学ぶ。

到達目標

1. 老年期に特有な健康障害について説明することができる。
2. 健康障害が日常生活に及ぼす影響について説明することができる。
3. 健康障害に応じた看護について説明することができる。

回数	単元	内容
1	高齢者に対する看護過程の展開の考え方	1. 老年看護における看護過程の展開 2. 紙上事例の紹介
2	看護過程の展開①	1. ゴードンの機能的健康パターンの情報整理 2. 情報の解釈・分析 3. 看護診断の抽出
3	看護過程の展開②	
4	看護過程の展開③	
5	看護過程の展開④	1. 関連図 2. 優先順位の決定
6	看護過程の展開⑤	1. 看護計画立案
7	看護過程の展開⑥	1. 看護計画の実施・評価・修正 2. SOAP記録
8	看護過程の展開⑦	⑤看護過程のまとめ

評価	終講試験、看護過程、授業参加態度などの総合評価とする。
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論（医学書院） 生活機能からみた老年看護過程（医学書院）
参考図書など	ヘルスアセスメント（南江堂） 看護のための人間発達学（医学書院）

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2021年度
授業科目名	小児看護学概論		担当教員	村上 ヒトミ (1, 13~15) 石井 淳子 (2~12)	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	1年 後期
授業形態	講義	実務経験の有無・職種・年数		村上 有・病院勤務(看護師)13年 石井 有・病院勤務(看護師)17年	

授業概要

子どもと家族を取り巻く環境とその変化について学び、小児看護の特徴と理念について学習する。子どもの成長・発達に盈虚羽する因子、成長・発達の評価、発達段階各期の機能的、生理的、知的、情緒的特徴等について学習し、小児看護の対象である子どもと家族の理解を深め、小児看護の概念と役割について学習する。また、子どもを取り巻く社会と、子どもや家族への適切な支援の概要を学ぶ。

到達目標

1. 小児看護の歴史から、現代における子どもを看護する上で必要な理念と看護者の姿勢について表現することができる。
2. 小児看護の目標、対象、特徴について説明することができる。
3. 小児看護を理解するために必要となる家族倫理および家族支援の必要性について表現することができる。
4. 子どもの成長発達の原理・原則と成長過程について説明することができる。
5. 各期の子どもの特徴を機能的・心理社会的側面から具体的に述べるすることができる。
6. 子どもにとって必要な栄養について説明することができる。
7. 子どもや家族への適切な支援について表現することができる。

回数	単元	内容
1	第1章 小児看護の特徴と理念	①小児看護の目指すところ ②小児看護の変遷 ③小児看護における倫理 ④小児と家族の諸統計 ⑤小児看護の課題
2	第2章 子どもの成長・発達	①成長・発達とは ②成長・発達の進み方 ③成長・発達に影響する因子 ④成長の評価 ⑤発達の評価
3	第3章 新生児・乳児 (1)	新生児 ①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③各機能の発達 ④養育および看護
4	第4章 新生児・乳児 (2)	乳児 ①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧養育および看護
5	第4章 新生児・乳児 (3)	
6	第5章 幼児 (1)	
7	第5章 幼児 (2)	①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧養育および看護
8	第5章 幼児 (3)	
9	第5章 学童 (1)	
10	第5章 学童 (2)	①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③感覚・運動機能 ④知的・情緒的機能 ⑤社会的機能 ⑥不適応行動・症状 ⑦学童を取り巻く諸環境 ⑧養育および看護
11	第6章 思春期・青年期 (1)	①形態的特徴 ②身体生理的特徴 ③感覚・運動機能 ④知的・情緒的機能 ⑤社会的機能 ⑥不適応行動・症状 ⑦学童を取り巻く諸環境 ⑧養育および看護
12	第6章 思春期・青年期 (2)	
13	第7章 家族の特徴とアセスメント	①子どもにとっての家族とは ②家族アセスメント
14	第8章 子どもを取り巻く社会 (1)	①児童福祉 ②母子保健 ③医療費の支援 ④予防接種 ⑤学校保健 ⑥特別支援教育 ⑦臓器移植法
15	第8章 子どもを取り巻く社会 (2)	

評価	客観テストによる評価80%、課題レポート20%の総合評価とする
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 (医学書院) 看護実践のための人間発達学 (医学書院) 国民衛生の動向
参考図書など	適宜紹介する

学校名	茅ヶ崎看護専門学校	学科名	看護学科	開講年度	2021年度
授業科目名	母性看護学方法論 I		担当教員	北川 悦子	
単位数	1単位	時間数	30時間	履修時期	2年 前期
授業形態	講義・演習	実務経験の有無・職種・年数		実務経験：有、病院勤務（助産師）：3年 専門学校教員：34年	
授業概要					
<p>正常な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過を学修する。妊婦・産婦に行われている看護内容を理解し、実習では妊婦・産婦に適切な対応ができるように学修する。正常な褥婦および新生児の観察、アセスメント、看護実践ができるような知識・技術・態度を学修する。</p>					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の定義を説明することができる。 2. 妊娠の成立と胎児の発育をイメージしたうえで、生命の尊厳を考察することができる。 3. 妊娠に伴って起こる変化をふまえ、ロールプレイングすることができる。 4. グループで分娩各期の看護について説明することができる。 5. 産褥期の心身の変化をふまえ、観察することができる。 6. 新生児の生理的变化をふまえ、アセスメント内容を説明することができる。 					
回数	単元	内容			
1	第1章 妊娠期における看護(1)	講義概要①妊娠の定義②妊娠期間と分娩予定日③妊娠の成立と胎児付属物④胎児循環 教科書第3章			
2	第1章 妊娠期における看護(2)	①妊娠各期の特徴②胎児の発育③妊娠に伴う母体の生理的变化 課題の説明 教科書第3章			
3	第1章 妊娠期における看護(3)	①妊婦の心理②家族の心理③社会的サポート④妊婦健康診査 教科書第3章			
4	第1章 妊娠期における看護(4)	妊娠各期（初期・中期・後期）の保健指導 ロールプレイングの準備 教科書第3章			
5	第1章 妊娠期における看護(5)	妊娠各期（初期・中期・後期）の保健指導 ロールプレイング 教科書第3章			
6	第2章 分娩期における看護(1)	①分娩の定義②分娩の3要素③胎児の産道通過機序 教科書第4章			
7	第2章 分娩期における看護(2)	①分娩各期の看護②ビショッpsスコア③恐怖・緊張・痛み症候群④母子相互作用 教科書第4章			
8	第2章 分娩期における看護(3)	①事例から分娩各期の看護を考える 教科書第4章			
9	第3章 産褥期における看護	①産褥期の生理的变化②退行性変化③進行性変化 教科書第6章			
10	第3章 産褥期における看護	①褥婦の心理的变化②家族の心理的变化③社会的支援 教科書第6章			
11	第3章 産褥期における看護	①子宮復古の援助②母乳促進の援助③褥婦の系統的観察④褥婦の健康と快適さを促す援助⑤育児技術への援助 教科書第6章			
12	第1～3章 母性看護の技術	演習：レオポルド触診法 胎児回旋 子宮底の観察 妊婦体験 教科書第3、4、6章			
13	第4章 新生児期における看護	①新生児の生理的变化②子宮外適応現象③生理的黄疸 教科書第5章			
14	第4章 新生児期における看護	①出生直後のアセスメントと看護②黄疸の評価③生理的体重減少の評価 教科書第5章			
15	第4章 新生児期における看護	①新生児の観察と報告②移行期から退院までの看護③新生児の医療事故と安全 教科書第5章			
評価	客観テストによる評価90% レポート10%				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院)				
参考図書など	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論 (医学書院)				